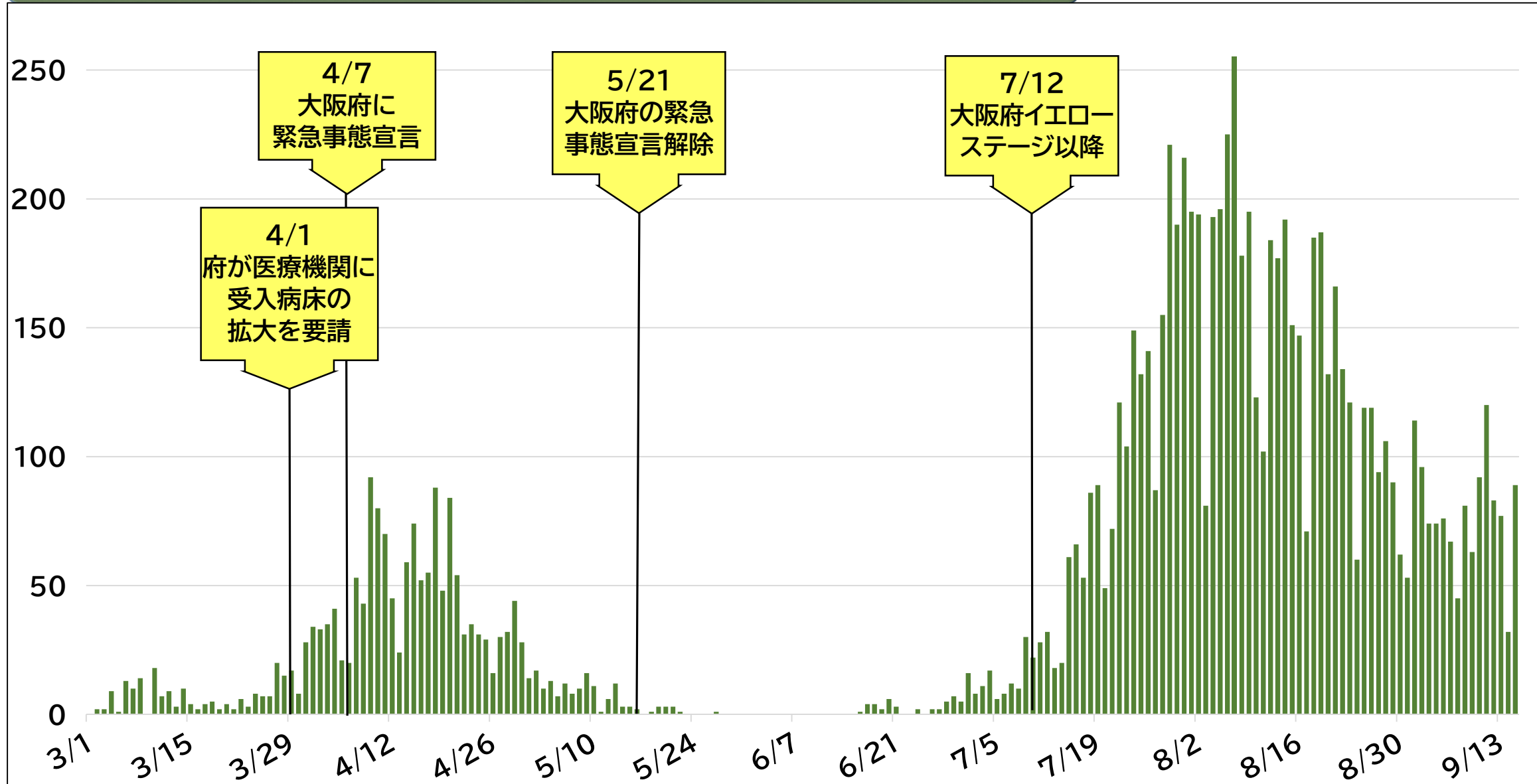


案件2 新型コロナウイルス感染症への対応 及び 現在の状況について



大阪府下の新型コロナウイルスの新規感染者数の推移

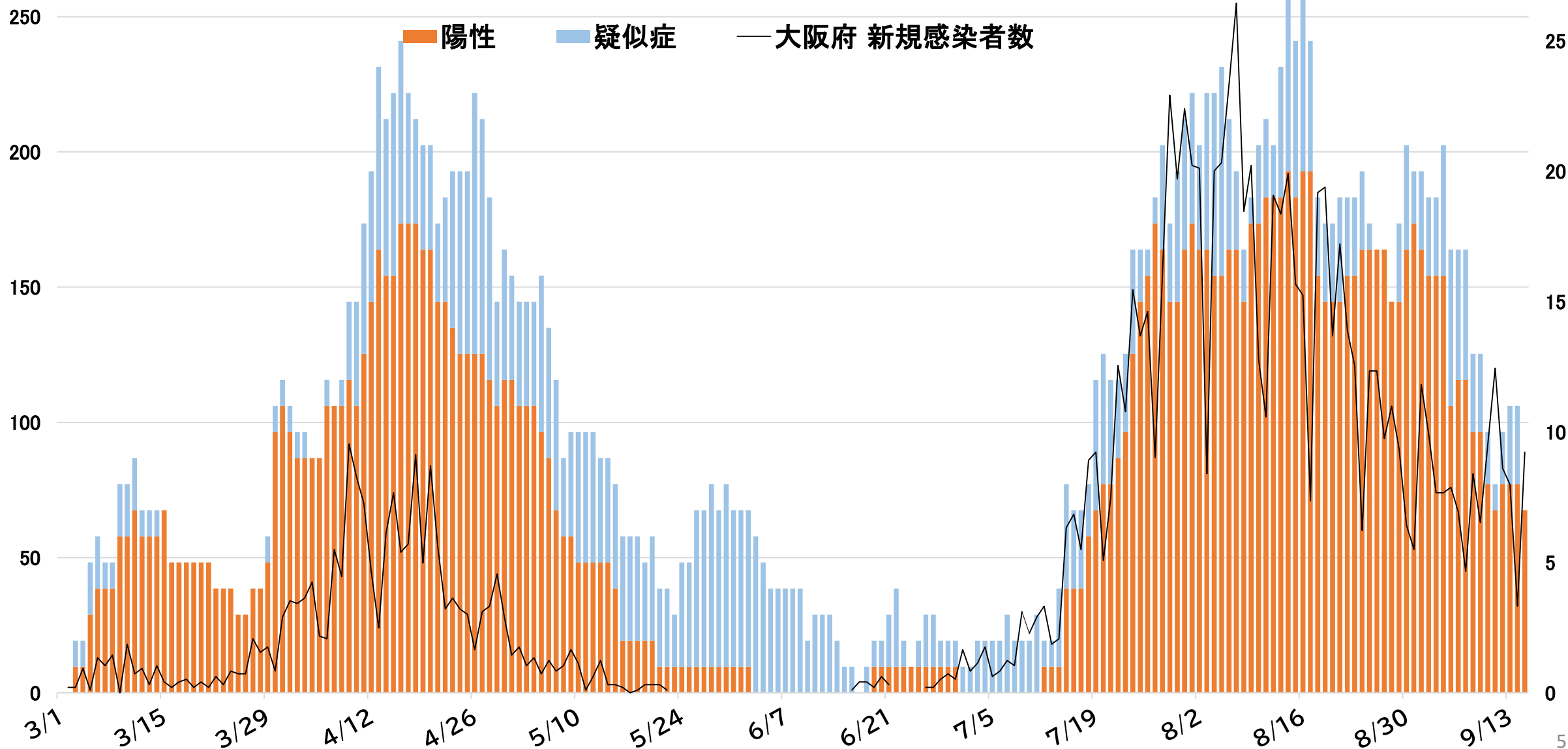


新型コロナウイルス感染症患者の受入等に関する本院の主な対応の経過

1月23日 1月31日	初の疑似症患者入院	看護局においてシミュレーション訓練を実施 7階東病棟感染症病床エリアでの受入を開始(8床対応)
2月5日 2月19日 2月23日	市に帰国者・接触者センター設置	面会制限開始 7階東病棟の一般患者14名を他病棟に転棟 7階東病棟の一般患者11名を他病棟に転棟(7東病棟一般病床閉鎖)
3月3日 3月19日 3月30日	初の陽性患者入院 大阪府フォローアップセンターによる入院調整開始	一般病棟の2床を感染症病床化(感染症対応病床が10床に)
4月1日 4月3日 4月7日	大阪府から受入病床の拡大要請(4/6に20床で回答)	医師による専門の主治医チームを立ち上げ 実質的に20床の受入対応を開始

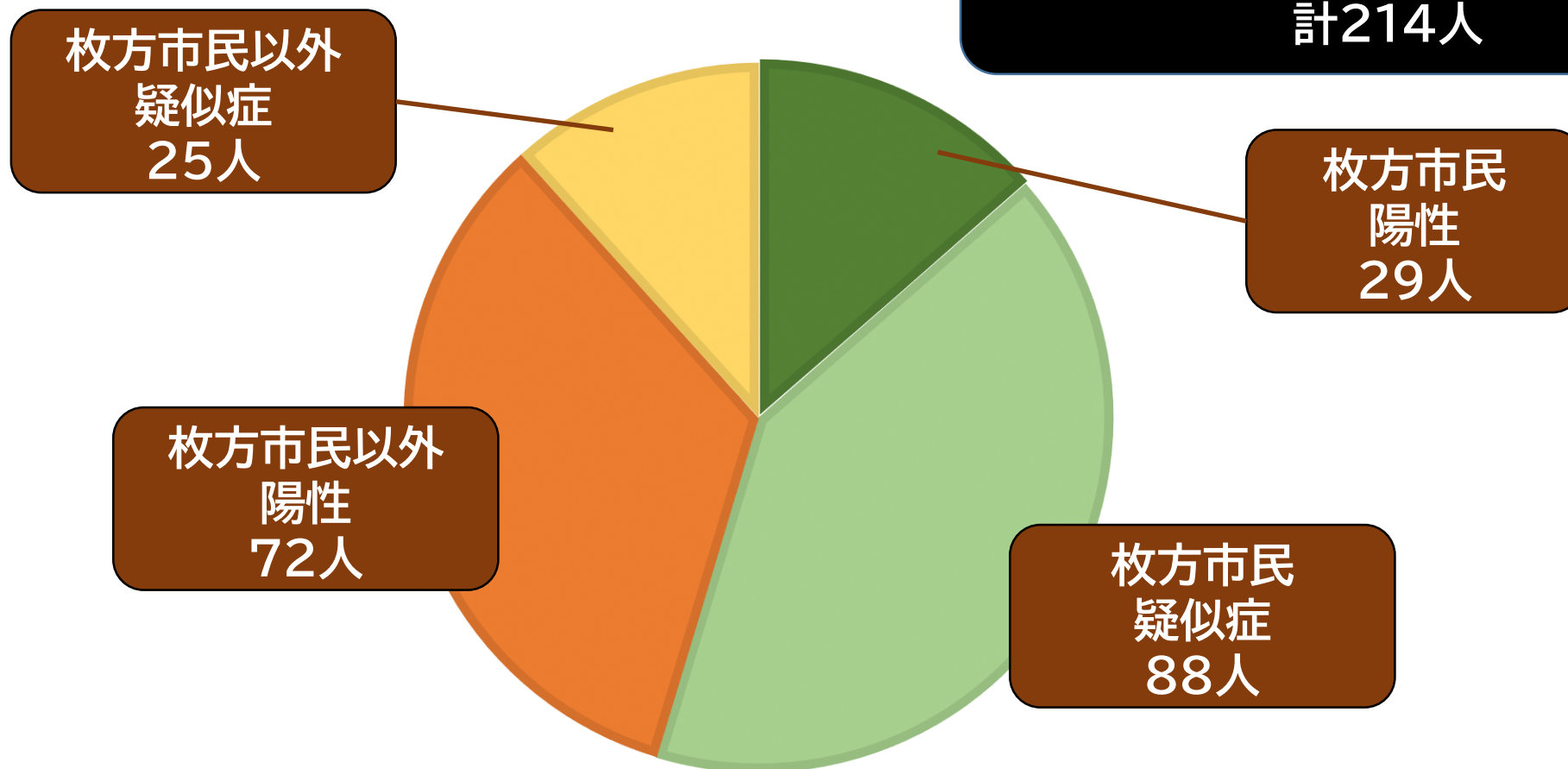
4月10日		6階西病棟を閉鎖(7階東病棟の看護体制強化のため) 7階東病棟に重症管理患者対応部屋(HCU)設置 正面玄関での検温開始
4月13日		発熱外来(Hブロック)運用開始
6月1日		外来診療を段階的に通常診療に戻していく 6階西病棟を開棟
7月5日	大阪府から感染拡大フェーズ毎の 病床運用計画及び重点医療機関・ 協力医療機関の指定(※)にかかる 意向確認調査	左記調査(※)について、受入病床をフェーズ2(感染拡大期)～フェーズ3(更なる感染拡大期)は26床、フェーズ4(想定を超える感染拡大期)は30床で回答 正面玄関前にサーマルカメラを設置し、サーモグラフィによる検温開始
8月3日	上記調査(※)の運用開始	大阪府の重点医療機関に指定 26床の受入対応(フェーズ2)を開始

本院の新型コロナに係る入院患者数 の推移

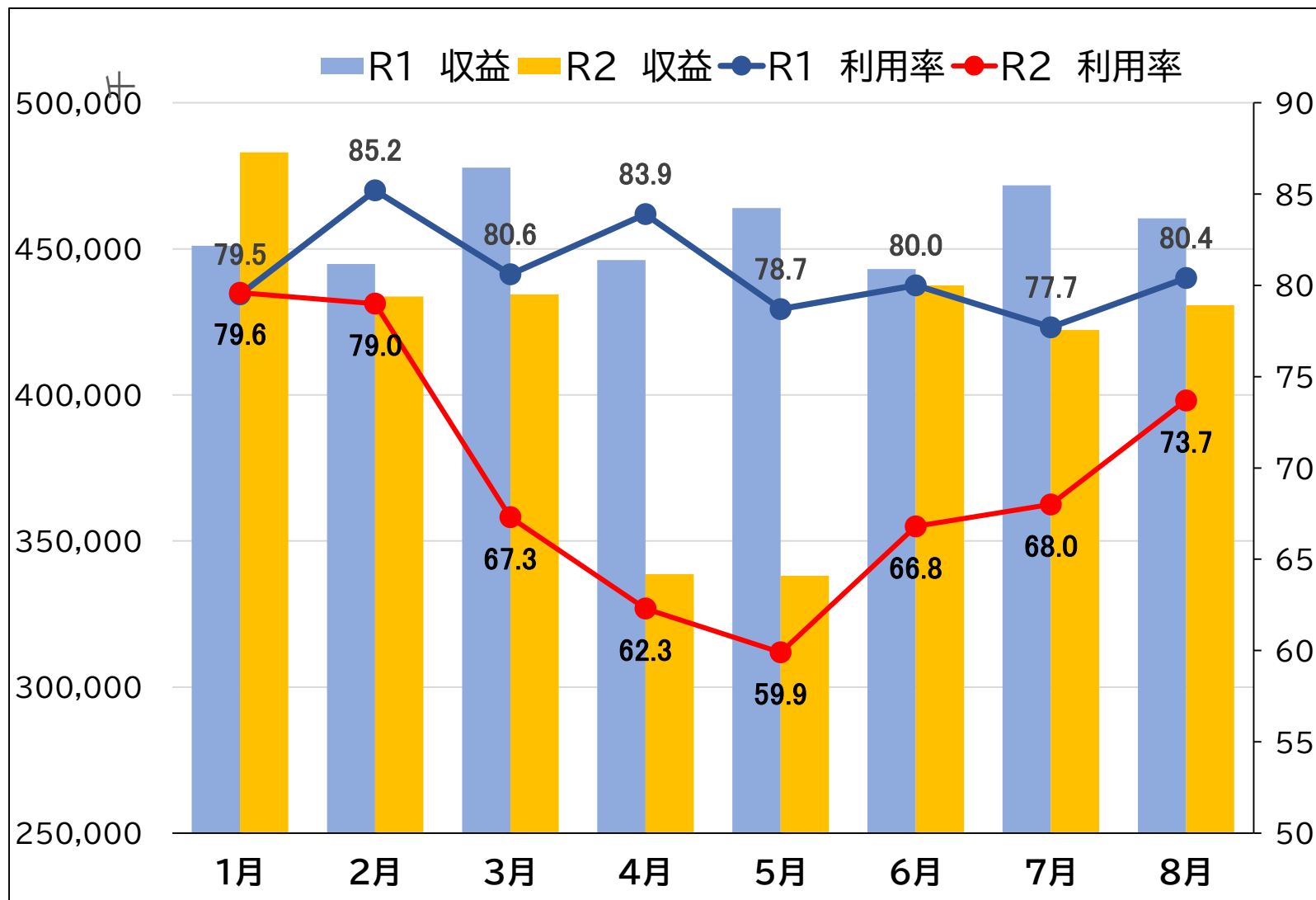


本院の新型コロナに係る入院患者の内訳

R2.1月～8月31日
陽性患者 101人、疑似症患者113人
計214人



業務への影響【新型コロナウイルス発生以降の業績】



入院患者の状況

1～8月の前年度との差
(8ヶ月のトータル)

患者数

8,154人⇒7,590人

【▲564人】

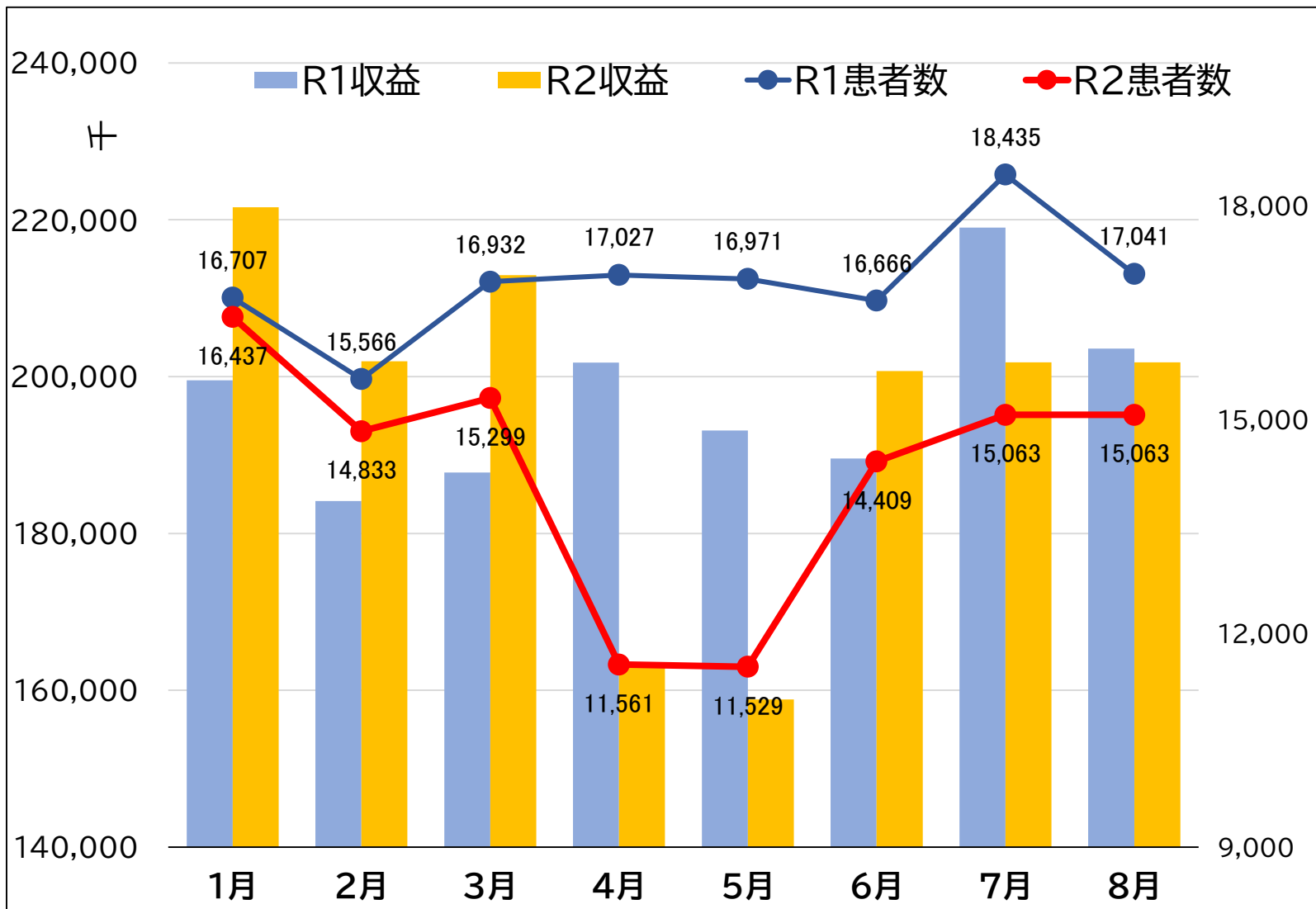
収益

3,658,929千円

⇒3,318,259千円

【▲340,670千円】

外来患者の状況



1～8月の前年度との差
(8ヶ月のトータル)

患者数

135,345人⇒114,194人
【▲21,151人】

収益

1,578,485千円
⇒1,563,166千円
【▲15,319千円】

入院+外来のトータル : 5,237,414千円⇒4,881,425千円【▲355,989千円】

院内の取り組み ①



本院では、住民の命と安全をお守りする観点から、新型コロナウイルス感染症に今後も適切に対応していくとともに、経営状況が厳しい状況にあることに鑑み、経営改善にも職員が一体となって取り組んでいくこととし、病院全体・診療科ごとにそれぞれ目標を新たに設定するなど、日々、取り組んでいるところです。

職員の意識向上を目的として
院内(オフィスや更衣室)に
掲示している“柱のポスター”



安心してご来院いただくために

本院が感染症指定病院であることから、
コロナを受け入れている ⇒ 危ないから行きたくない
 ではなく
 感染症指定病院だからこそその設備が整っていること
 さらに様々な感染防止対策を行っていることを
 積極的にアピールし
 本院に**安心してご来院**いただくよう取り組んでいます

広報ひらかた7月号
 林病院長のインタビューを掲載

あなたの身近な
市立ひらかた病院
安心して来院を



新型コロナウイルスの感染を恐れて受診を躊躇っている皆さん。北河内地区の市立病院で地域医療の拠点でもある市立ひらかた病院では、コロナ以外の疾患を抱える人にも安心して来院してもらえよう、さまざまな院内感染防止対策を行っています。この取組の林病院長（写真左下）に詳しく話を伺いました。

◎市立ひらかた病院総機室 847・2621代、847・2622代

徹底して感染症対策を行っています

当院はもとより結核や重症急性呼吸器症候群（SARS）などの感染症患者を受け入れられる「第2種感染症指定医療機関」として、感染症患者とそれ以外の患者が接触しないよう入口や病室が完全に区別された施設となっています。

さらに、新型コロナウイルスの院内感染を防ぐため、職員にはマスクの着用を必須とし、いつでも手指消毒が行える携帯用アルコールを支給しています。また、6月上旬からは正面玄関の入口にサーマルカメラを設置し、なるべく検温しないよう来院者がアルコールで手指消毒を行っている間にサーモグラフィ検温を行っています。もし37.5度以上の発



▶守衛室で発熱している患者がいないかチェック。

熱が認められれば体温計でもダブルチェックを行い、他の患者と動線が交わらないよう病室裏にある感染症出入口を通過して発熱外来へ案内します。



基礎疾患や高齢者がコロナを罹患させることもあるため、治療が遅れることのないようしっかり受診いただくとともに、日頃からコロナに感染しても立ち向かえる身体づくりを目指していただきたいと思います。少しでも体調がよくなりませんか。

林病院長 60歳
 平成31年度から市立ひらかた病院院長に就任。昨年より「コロナ対策センター」を開設。

コロナ以外の疾患も見過さないよう受診を

これまでに経験のないコロナ禍で、精神的にも身体的にも不安を感じている市民の皆さんも多いかと思いますが、実際、新型コロナウイルスが流行し始めてから「市立ひらかた病院はコロナ患者を受け入れているから心配」と、感染を恐れて一般診療の受診を躊躇する人が増えています。

しかし、感染症指定医療機関だからこそ、入口から病室まで感染対策専用のルートがしっかりと確保されているなど安心して受診できる設計となっており、その上で院内感染を抑えささないよう、万全を期して対策に取り組んでいます。

基礎疾患や高齢者がコロナを罹患させることもあるため、治療が遅れることのないようしっかり受診いただくとともに、日頃からコロナに感染しても立ち向かえる身体づくりを目指していただきたいと思います。少しでも体調がよくなりませんか。

来院する際のお願い

毎朝検温を行い、「いつもと体調が違う」と思ったら症状をメモって受診の際に持ってきてください。発熱があった場合は、受診前にまず新型コロナウイルス相談センター（堺区庁・接点者相談センター）やかかりつけ医、当院に電話で連絡し、指示を仰いでください。

来院時はマスク着用の上、玄関入口での検温と手指消毒をお願いします。また、面会は原則禁止としています。

すべての患者さんに安全な環境で安心して受診してもらえよう、引き続き感染防止対策を徹底し、職員一同全力で取り組んでいきます。

下肢機能再建センターで「元気に歩ける」を目指しましょう

高齢化社会が進む中、変形性関節症や変形性膝関節症など加齢に伴う疾患や、スポーツ人口の増加により足やひざなど下腿に障害のある人が増えています。当センターでは、股関節、ひざ関節、足それぞれの分野の専門医3人が診療に当たり、一人一人の病状に合わせた適切な治療を行います。生活の質を高め、健康寿命を延ばすためにも、関節の痛みに悩まされている人は当センターでチェックを受け、一日でも早く「元気に歩ける」を一歩に目指しましょう。

本院ホームページ
「感染防止対策」のページを掲載



本院パンフレットより
一般の患者さんとは異なった感染症出入口で、入院までの動線が完全にセパレート

